

# Approach



現代文



アプローチ

manavee 国語科 はやお著

【目次】

評論	3
小説	10

【講義内容】

第1講	イントロダクション
第2講	評論・論説の読み方「評論」
第3講	全体概観「評論」
第4講	「指示語」と「指示内容」、「接続語」「評論」
第5講	「説明」「評論」
第6講	「理由」「評論」
第7講	「要旨」の把握「評論」
第8講	全体概観「小説」
第9講	「心情」にせまる「小説」
第10講	「心情」と「風景」「小説」
第11講	「心情」と「事件」「小説」
第12講	「象徴」「小説」

【本書の使い方】

- ① まずは自分で問題を解き、採点をする
- ② 教室で講義を受ける
- ③ 問題をもう一度見直し、記述答案の作成について、何に気を付けるべきかを考える
- ④ わからないところの質問や、添削依頼はコメント欄にて受けます

【課題文】 津野海太郎『小さなメディアの必要』

次の課題文を読み、続く設問に答えよ。(配点百点)

ウィリアム・モリスは金儲けの天才だったという説がある。そう書いたのは渡部昇一<sup>(\*1)</sup>で、私たちはこの奇説に、エッセイスト・クラブ賞をえたかれの著書『①フバイの時代』のなかで接することができる。

ケルムスコット版として知られる本の装幀のみならず、壁紙や織物の天才的なデザイナーだったモリスは、同時に、イギリス労働運動の先達のひとり、イギリスで最初のマルクス主義者のひとりでもあった。この、(1)モリスにおけるデザインと社会主義とのむすびつきが、渡部にはことのほか②フユカイだったようだ。これでは安心して、自分の③ショサイを美しいモリス・プリントでかざることすらできないではないか。かれの「知的生活」にとつて、モリスをもっと消化しやすいものしておくなくてはならない。(2)そのための「方法」が、モリスを金儲けの天才にしたあげることだった。

モリスの家具や壁紙はよく売れた。それはかれが「自分の店」をもち、製品の質を高度にたもつことができたからだ。

ささえたのはほかならぬ資本主義の経済体制だった。

権の神聖を尊重しなければならない——しかるに、(3)見てはならない夢を見てしまったモリスには、この(4)簡単な理屈が見ぬけなかった。当然の結果として、かれは社会主義的な労働運動に手ひどく裏切られる。

「革命の実践団体から退いたモリスは何をやったか、と言えば、彼は自分の『(5)出発点』に帰ったのである。そして手造りに近い美しい本を作り出すことに夢中になった。モリスは十五世紀の印刷術を復興することを意図したのである。これが有名なケルムスコット版の誕生であった」。

このモリス像を批判するのは、本来であれば私などではなく、中公新書で『ウィリアム・モリス』を書いた小野二郎<sup>(\*5)</sup>の役目である。

製品の質をたもつのは、それを獲得し、まもる、職人たちの自由な連合の質である。小野二郎によれば、モリスはそのように考えて、かれらの「店」をつくった。「戦いのための組織がそのまま生産のための組織になる」——資本主義がこうした連合をぶちこわしつつける体制であることは、

いうまでもない。しかし社会主義を名のつて、こうした連合の質をぶちこわす体制があるとすれば、それも本当の社会主義とはいえない。一八九〇年、かれはたしかに社会主義同盟をとびだし、ケルムスコット・プレス（印刷所）を設立した。**ウ**、それと**ヘイコウ**④して、渡部は見えないふりをしてしまったが、モリスは**⑥**自分の考える社会主義運動の拠点として、あらたにハマスミス社会主義協会を設立しているのである。かれは「革命へむけての教育」という主張をてこに**⑤**ガイトウ集会に参加し、協会の集会所で日曜講義や芸術の夕べをひらいて、自作の劇に出演した。『ユートピア便り』を書きはじめたのも同じ一八九〇年だった。

「**⑦**モリスは運動そのものから失意のうちに引退したわけではなかった。一八九八年の死に至るまで、かつてほどの頻度はないにしても、その運動はつづいたし、少なくなつたのも九一年来の健康のいちじるしい悪化のせいであつて、運動に対して興味を失つたり幻滅したりしたからではない」。

晩年の数年間にかぎつても、渡部昇一のモリスと小野二郎のモリスとは**⑧**正反対の顔だちをしている。両者のちがいは調整の余地がない。これは私の推測だが、渡部は「ラディカル・デザインの思想」と副題された小野の本を読んで、それにたいする一種のあてこすりとして、かれのモリス論を書いたのではあるまいか。「**⑥**キョウシンの思想を抱いたデザイナーという言葉から連想されるようなものはモリスには全然なかった」と渡部はいいつゝのる。大胆なひとだ。これに反論するのはやはり小野の役目であろう。

渡部昇一はかれの買とりマンションにおける「知的生活」の安定と充実のために、モリスの壁紙をモリスの社会主義ぬきで所有する「方法」をあみだし、それをかれの読者に披露することができた。読者諸君の私有意識をくすぐり、見てはならない夢からかれらをひきはなしておくために、にせのモリス像をでつちあげた。このモリスは抽象的な空間のなかに不意にあらわれたのではない。それは一九七〇年代なかばの日本という具体的な状況のなかで、もうひとつのモリスを否定し、せせらわらい、時代おくれのものとするために、ほとんどそのことのためだけにもちだされたのである。天下の大勢は自分に有利だ。いまならどんなきたない手口もゆるされる。かれはそう思っていたにちがいない。

注 1 渡部昇一——日本の英語学者・評論家。近現代史への造詣も深く、日本を代表する保守主義者の一人でもある。（一九三〇）

2 ケルムスコット版——イギリスのW. モリスが一八九〇年に創設した、ケルムスコット・プレスで印刷した美術的な活版印刷物。

3 モリス——ウィリアム・モリス（William Morris）（一八三四—一八九六）イギリスの詩人、デザイナー・マルクス主義者。それぞれの分野で精力的に活動し、大きな業績を上げた。「モダンデザインの父」とも称される。

4 マルクス主義——カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスによって展開された社会主義思想の一つ。科学的社会主義とも言われる。資本を社会の共有財産とすることにより労働者の権利を守り、階級の無い協同社会を目指すという考え。







〔模範解答および採点基準〕

共通 漢字ミスー①点減点

文末表現ミスー②点減点

文字数ー「」以内」と断つてあるものに関しては、規定文字数の八割～十割までを採点対象とする。超過・不足は一切認めない。

・「程度」と断つてあるものに関しては、標準文字数の二割増～二割減までを採点対象とする。超過・不足は一切認めない。

文章表現の未熟ー規定点数の二～五割の減点を、その巧拙によって行う。

特に指定がない限り、要素や結論などが採点基準と同意であればそれでよい。

0 ①腐敗 ②不愉快 ③書斎 ④並行 ⑤街頭 ⑥急進 【各2点×6】

1 ア.. B イ.. E ウ.. A 【各3点×3】

2 資本主義要素Aに支えられて仕事をする天才的デザイナーデザイナーへの言及であると同時に、マルクス主義者要素B（社会主義者）でもあること。45字 【8点】

3 渡部昇一要素Aは、かれの「知的生活」の安定と充実のために、「モリスの壁紙はモリスが社会主義要素Bから距離を置きながら作ったものだ」というにせの

モリス像をでっち上げ、モリスの壁紙を社会主義抜きで所有する「方法」を編み出し、それをかれの読者に披露しようとしたため。【12点】

4 製品の質を高度に保ち、彼の仕事を支えたのは、資本主義の経済体制であるにもかかわらず、モリスは相反する

社会主義要素B的な労働運動を行い、質の高い芸術と、社会主義が共存できるという考えを持っていたということ。〈要素A「資本主義」と、要素B「社会主義」も

しくは労働運動の対立および矛盾への言及という構造が守られていれば、基本的には点数となり得る。〉 【14点】

5 生活に芸術 くらばならない 【5点】

6 (i)十五世紀の印刷術 (ii)ケルムスコット版 【各3点×2】

7 製品の質を 【5点】

8 要素A「ハマスミス社会主義協会の設立や『ユートピア便り』によって、モリスの考える「革命へ向けての教育」を行っていたため。56字 【10点】

9 主語① 渡部① は、要素A「渡部の考え」<sup>②</sup>、社会的な労働運動から裏切られたために、モリスは労働運動から身を引いたと考えたが、一方小野① は、

要素B「小野の考え」<sup>③</sup>、社会主義同盟から飛び出した後も、彼の考える社会主義運動を続けており、運動に対して興味を失う、あるいは幻滅するなどの理由で運動から引

退したわけではないという、相反する意見の存在<sup>④</sup>、正反対の考え方が存在するということ。148字 要素A「渡部の考え」と、要素B「小野の考え」の対立構造、そしてその対立が存在するこ

との明示が行われている必要がある。 【20点】

【課題文】 太宰治『富嶽百景』

次の課題文を読み、続く設問に答えよ。(配点七〇点)

「お客さん！ 起きて見よ！」かん高い声で或る朝、茶店の外で、娘さんが絶叫したので、私は、しぶしぶ起きて、廊下へ出て見た。

娘さんは、興奮して頬をまっか<sup>①</sup>にしていた。だまって空を指さした。見ると、雪。はっと思った。富士に雪が降ったのだ。山頂が、まっしろに、光りかがやいていた。御坂の富士も、ばかにできないぞと思った。

「いいね。」

とほめてやると、娘さんは得意そうに、

「すばらしいでしょう？」といい言葉使って、「御坂の富士は、これでも、だめ？」としゃがんで言った。私が、かねがね、こんな富士は俗でだめだ、と教えていたので、娘さんは、内心しよ<sup>②</sup>げていたのかも知れない。

「やはり、富士は、雪が降らなければ、だめなものだ。」もつともらしい顔をして、私は、そう教えなおした。

私は、どてら着て山を歩きまわって、月見草の種を両の手のひらに一ぱいとって来て、それを茶店の背戸に播<sup>ま</sup>いてやって、

「いいかい、これは僕の月見草だからね、来年また来て見るのだからね、ここへお洗濯の水なんか捨てちゃいけないよ。」娘さんは、うなずいた。

「ことさらに、月見草を選んだわけは、富士には月見草がよく似合うと、思い込んだ事情があったからである。御坂峠のその茶店は、謂<sup>いわ</sup>ば山中の一軒家であるから、郵便物は、配達されない。峠の頂上から、バスで三十分程ゆられて峠の<sup>①</sup>麓、河口<sup>②</sup>湖畔の、河口村という文字通りの寒村にた

どり着くのであるが、その河口村の郵便局に、私宛の郵便物が留め置かれて、私は三日に一度ぐらいの割で、その郵便物を受け取りに出かけなければならぬ。天気の良い日を選んで行く。このバスの女車掌は、遊覧客のために、格別風景の説明をして呉れない。それでもときどき、思い出したように、<sup>③</sup>甚だ散文的な口調で、あれが三ツ峠、向うが河口湖、わかさぎという魚がいます、など、物憂そうな、眩きに似た説明をして聞かせることもある。

河口局から郵便物を受け取り、またバスにゆられて峠の茶屋に引返す途中、私のすぐとなりには、濃い茶色の被<sup>ひ</sup>布<sup>ふ</sup>を来た青白い<sup>③</sup>タンセイの顔の、

六十歳くらい、私の母とよく似た老婆がちゃんと坐っていて、女車掌が、思い出したように、みなさん、きょうは富士がよく見えますね、と説明ともつかず、また自分ひとりの咏嘆えいたんともつかぬ言葉を、突然言いだして、リュックサククしよった若いサラリーマンや、大きい日本髪ゆって、口もとを大事にハンケチでおおいかくし、絹物まとった芸者風の女など、からだをねじ曲げ、一せいに車窓から首を出して、いまさらのごとく、その(4)変哲もない三角の山を眺めては、やあ、とか、まあ、とか間抜けた(4)タンセイを発して、車内はひとしきり、ざわめいた。けれども、私のとなりの御隠居は、胸に深い憂悶ゆうもんでもあるのか、他の遊覧客とちがって、富士には(5)一瞥も与えず、かえって富士と反対側の、山路に沿った(5)断崖をじっと見つめて、私にはその様が、からだがしびれるほど快く感ぜられ、私もまた、富士なんか、あんな俗な山、見度たぐくもないという、高尚な虚無の心を、その老婆に見せてやりたく思つて、あなたのお苦しみ、わびしさ、みなよくわかる、と頼まれもせぬのに、共鳴の素振りを見せてあげたく、老婆に甘えかかるように、そつとすり寄つて、老婆とおなじ姿勢で、ぼんやり崖の方を、眺めてやつた。

老婆も何かしら、私に安心していたところがあったのだろう、ぼんやりひとこと、

「おや、月見草。」

そう言つて、細い指でもつて、路傍の一箇所をゆびさした。さつと、バスは過ぎてゆき、私の目には、いま、ちらとひとめ見た黄金色の月見草の花ひとつ、花弁もあざやかに消えず残つた。

三七八米の富士の山と、立派に相對峙あいたいじし、みじんもゆるがず、なんと言うのか、金剛力草とでも言いたいくらい、けなげにすつくと立っていた

あの(6)月見草は、よかつた。

(7)





0 ①フモト ②コハン ③端正〔端整〕 ④嘆声 ⑤ダンガイ ⑥急進 【各2点×5】

1 言葉で言い表すよりも、実際に見せた方が早いと考えたため。【5点】

2 御坂の富士は俗だと言っていたのにはかになできないと思ひ直したため、娘に格好かつかずその照れ隠しをせねばならなかつたため。 (59字)

【12点】

3 ぶつぶつと切れるような、とぎれとぎれの話し方。【5点】

4 あんな俗な山 【5点】

5 少しも富士山に視線を送ることが無いということ。【6点】

6 作者が好感をもつた老婆の指差した月見草は、皆が賞賛する富士山と比べて人目は惹かないが、その

月見草の美しさは富士山と比べても立派で見劣りせず、むしろ力強くけなげに咲く月見草の方が美しいと受け止めている。(100字) 【20点】

7 富士には月見草がよく似合う(14字) 【7点】